

新たな地方創生の 確立に向けて

佐渡市議会議長 根岸 勇雄



新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、希望を抱いて新春を迎えられたことと存じます。日頃より市政の発展に多大なるご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年は、新たな地方創生元年として、佐渡市においても佐渡版地方創生総合戦略が策定されました。人口減少に歯止めをかけ、いかに活力ある地域を作っていくのか、本年はそれを具体化させる年であり、あります。

振り返れば、地方の人口減少は今に始まったことではありません。日本は、昭和三十年代から、高度経済成長期を迎え、地方からの若者流出が顕著になりました。その結果、第一次産業を主体とする地方は著しい格差と過疎高齢化が進み、地域の存続が危ぶまれるようになりました。これまでも、自主自立を目標に一村一品、地域おこし等格差是正と地域活性化への取り組みがなされましたが、社会構造の変化や、少子化・高齢化の進展と相まって、人口流出が止まらない現状があります。

このまちに住んでよかったと実感できるような地域づくりにとどのように取り組んでいくのか、地方創生を考える本旨はここにあり、これが私どもに課せられた大きなテーマであると考えております。

そのためにも、今の地方創生の流れを一度性のもとするのではなく、持続可能な仕組みづくりを市民・行政・議会が一体となつて、共に考え共に行動し、より具体的

な一歩を踏み出すことが必要であろうと思っております。

地理的な面で本土との格差を有する離島においては、離島振興法による施策により格差是正が図られてきましたが、まだまだ十分とはいえません。今、海洋保全など国境周辺の有人離島が担う役割の重要性が認識され、「国境離島特別措置法(仮称)」が議論されていますが、離島に人が住み続けるためには、交通手段の確保や産業・定住基盤の整備が極めて重要であり、一刻も早い法律の制定を要望していく必要があると考えています。

昨年は北陸新幹線の開業、小木直江津航路への高速船就航など佐渡観光にとって新たなページが綴られた一方で、佐渡金銀山の世界遺産登録の日本推薦は見送りとなつてしまいました。効果はもとより課題をしっかりと検証する中で、次のステップにつなげる必要があります。議会もしっかりとしたチェック機能を果たしていかねばならないと思っております。

佐渡金銀山の世界遺産登録への取り組み、産業振興、教育や文化の振興、防災対策、子育て・高齢者対策の充実等課題は山積しています。それらを着実に解決していくよう市民の皆様におかれてもご支援ご協力をお願いする次第です。

結びに、本年が皆様にとって幸せ多い年でありますよう心から念願いたしました。年頭のあいさつとさせていただきます。